

2024年7月の天候（山形県）

目 次

- 1 天候経過
- 2 日々の気圧配置
- 3 気候統計値
- 4 気象経過図
- 5 気象分布図
- 6 極値・順位値更新表
- 7 その他

山 形 地 方 気 象 台

本資料に関する問い合わせ先

山形地方気象台

T E L 023-622-0632

[注意事項]

本資料に掲載されている観測値は断り書きがない限り、山形は気象官署、酒田、新庄は特別地域気象観測所、鶴岡・長井・米沢は地域気象観測所の観測値を使用しております。資料中の観測値は、後日、内容を訂正・追加する場合があります。

なお、本資料の著作権は山形地方気象台が有しています。掲載されているデータや図表を利用する場合は「山形地方気象台の資料に拠った」旨記載してください。

また、営利を目的に増刷など行う場合は所定の手続きに拠るものとします。

1 天候経過（2024年7月）

【今月の特徴】

○高温・多雨・寡照 ○24日から26日にかけて記録的な大雨（庄内と最上の7市町村に大雨特別警報）

- ・庄内と最上の8地点で25日の日降水量が観測史上1位を更新した。
- ・高峰など5地点で日最低気温の高い方から7月として1位を更新した。

【概況】

月

この期間、梅雨前線が東北地方に停滞することが多く、曇りや雨の日が多かった。特に24日から26日にかけては、前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で、大気の状態が非常に不安定となり、記録的な大雨となった。この大雨により庄内や最上を中心に河川の氾濫や浸水害、土砂災害が多数発生し、大きな被害となった。

月平均気温は高く、かなり高い所があった。月降水量は村山と置賜で多く、かなり多い所があったが、平年並の所もあった。庄内と最上ではかなり多い。月間日照時間は少なく、かなり少ない所があった。

上旬

梅雨前線や低気圧の影響により曇りや雨の日が続いた。特に7日から10日にかけて、雨が降り続き、最上で7月の月平年値を上回る降水量となった所があるなど、総雨量が多くなった。また、9日は最上町向町で日最大1時間降水量61ミリの観測史上1位を更新するなど局地的な大雨ともなった。

旬平均気温は高く、村山と置賜ではかなり高い所があった。旬降水量は村山と置賜で多く、かなり多い所があった。庄内と最上ではかなり多い。旬間日照時間は少なく、村山と置賜ではかなり少ない所が、最上では平年並の所があった。

中旬

前半は梅雨前線が本州南岸まで南下し晴れる時もあったが、梅雨前線の影響により曇りや雨の日が続いた。また、18日は庄内と最上で日降水量100ミリ以上を観測する所があるなど大雨となった。

旬平均気温は村山で高いから平年並、置賜と庄内、最上では高い。旬降水量は村山と庄内では平年並から多く、置賜では平年並、最上では多い。旬間日照時間は平年並。

下旬

はじめは高気圧に覆われて晴れる日もあったが、梅雨前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多かった。特に24日から26日にかけては、前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で、大気の状態が非常に不安定となり、25日には線状降水帯が発生するなど激しい雨や非常に激しい雨が断続的に続き、庄内と最上の市町村に大雨特別警報を発表した。庄内と最上で降り始めからの降水量が400ミリを超えるなど記録的な大雨となった。この大雨により、庄内や最上を中心に河川の氾濫、浸水害、土砂災害が多数発生し、大きな被害となった。

旬平均気温は高く、かなり高い所があった。旬降水量は村山と置賜で多く、かなり多い所があったが、置賜では平年並の所もあった。庄内と最上でかなり多い。旬間日照時間は少なく、かなり少ない所があった。

2 日々の気圧配置（2024年7月）

- 1 日：北海道付近にある低気圧からのびる寒冷前線が東北地方を通過する。
- 2 日：高気圧が日本海にあって東へ移動する。一方、梅雨前線が西日本を通過して日本の東へのびる。
- 3 日：梅雨前線が東日本から北日本へ北上する。
- 4 日：北日本は気圧の谷となる。
- 5 日：低気圧が日本海にあって東北東へ進む。
- 6 日：低気圧が中国東北区にあって東北東へ進む。低気圧から温暖前線が日本海にのびる。
- 7 日：低気圧が日本海中部にあって東北東へ進む。低気圧から温暖前線が東北地方にのびる。
- 8 日：梅雨前線が東北地方に停滞する。
- 9 日：梅雨前線が東北地方に停滞する。前線上の低気圧が東北地方を通過する。
- 10 日：梅雨前線が東北地方に停滞する。前線上の低気圧が日本海を東北東へ進む。
- 11 日：梅雨前線が東北地方を南下する。
- 12 日：高気圧が日本海にあってゆっくりと東へ移動する。一方、梅雨前線は本州南岸に停滞する。
- 13 日：高気圧が日本海に東へ移動する。一方、梅雨前線は本州南岸に停滞する。
- 14 日：梅雨前線が東日本から東北地方へ北上する。
- 15 日：梅雨前線が東北地方を南下し、次第に高気圧に緩やかに覆われる。
- 16 日：梅雨前線が日本海をとおり、東日本に停滞する。
- 17 日：梅雨前線が日本海をとおり、東日本に停滞する。
- 18 日：梅雨前線が東日本から東北地方へ北上する。
- 19 日：梅雨前線が北日本を北上する。
- 20 日：北日本に停滞する梅雨前線は次第に不明瞭となり、東北地方は緩やかに高気圧に覆われる。
- 21 日：東北地方は高気圧に緩やかに覆われる。一方、前線を伴った低気圧が日本海を東北東へ進む。
- 22 日：寒冷前線が北日本を通過する。
- 23 日：本州付近は高気圧に覆われる。
- 24 日：梅雨前線が北海道から東北地方へゆっくり南下する。
- 25 日：梅雨前線が東北地方に停滞し、前線上の低気圧が日本海を東へ進む。
- 26 日：引き続き、梅雨前線が東北地方に停滞する。前線上の低気圧が東北地方を通過する。
- 27 日：引き続き、梅雨前線が東北地方に停滞する。
- 28 日：引き続き、梅雨前線が東北地方に停滞する。
- 29 日：低気圧が日本海北部にあって、梅雨前線が北日本にのびる。
- 30 日：低気圧が北海道を通過し、梅雨前線が北日本を南下する。
- 31 日：梅雨前線が東日本へ南下し不明瞭となり、東北地方は次第に緩やかに高気圧に覆われる。

3 気候統計値（2024年7月）

・2024年7月の平均気温、降水量、日照時間

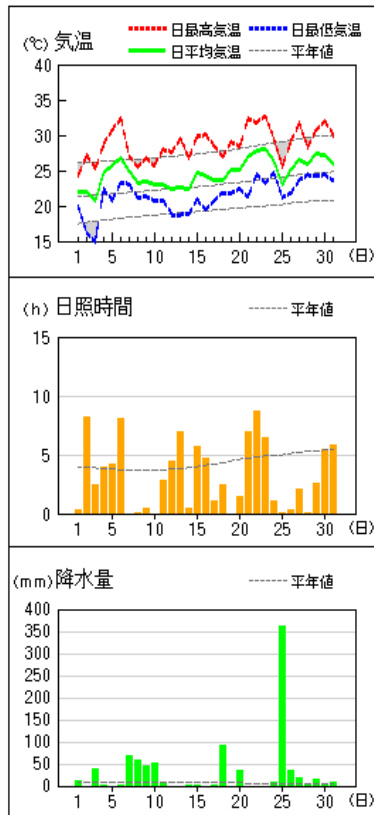
		平均気温（℃）			降水量（mm）			日照時間（h）		
		本 年	平年差 （℃）	階級区分	本 年	平年比 （%）	階級区分	本 年	平年比 （%）	階級区分
山形	上旬	25.5	+2.7	かなり高い	80.0	138	多い	20.2	49	少ない
	中旬	24.6	+1.0	高い	86.0	125	平年並	32.1	76	平年並
	下旬	27.8	+2.6	かなり高い	113.0	187	多い	44.9	73	平年並
	月	26.0	+2.1	かなり高い	279.0	149	多い	97.2	67	少ない
酒田	上旬	23.7	+1.3	高い	142.0	176	多い	22.0	49	少ない
	中旬	24.8	+1.3	高い	106.0	129	多い	40.5	86	平年並
	下旬	27.0	+1.5	高い	313.5	557	かなり多い	30.1	45	かなり少ない
	月	25.2	+1.4	高い	561.5	257	かなり多い	92.6	58	かなり少ない
新庄	上旬	23.6	+1.8	高い	282.5	341	かなり多い	27.7	74	平年並
	中旬	23.7	+1.0	高い	137.0	168	多い	30.2	77	平年並
	下旬	26.4	+2.1	かなり高い	450.5	815	かなり多い	39.7	70	少ない
	月	24.6	+1.6	かなり高い	870.0	396	かなり多い	97.6	74	少ない
米沢	上旬	24.3	+2.0	高い	111.0	188	多い	28.4	71	少ない
	中旬	24.1)	+0.9	高い	41.0)	60	平年並	30.1	70	平年並
	下旬	26.6	+1.9	高い	28.0	55	平年並	40.6	64	少ない
	月	25.1)	+1.7	高い	180.0)	101	平年並	99.1	68	少ない

注】次の表示 X:欠測) : 準正常値] : 資料不足値 - : 現象なし （平年値は1991～2020年の平均値）

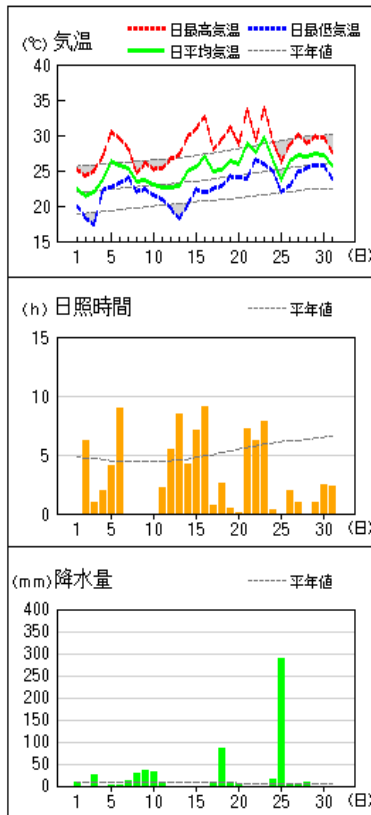
4 気象経過図（2024年7月）

アメダス 気象経過図：2024年07月01日-2024年07月31日

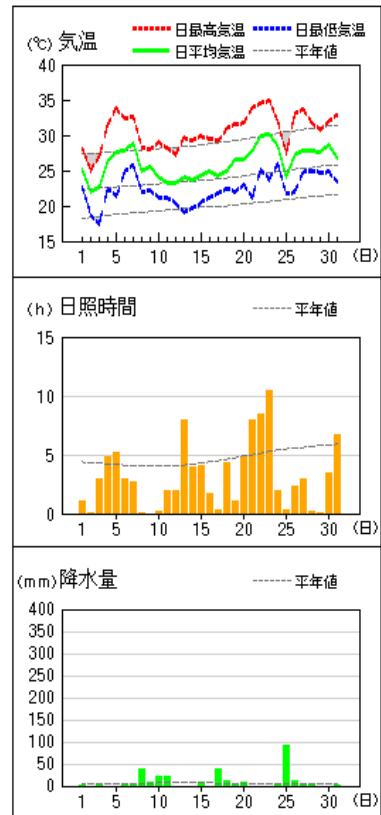
新庄



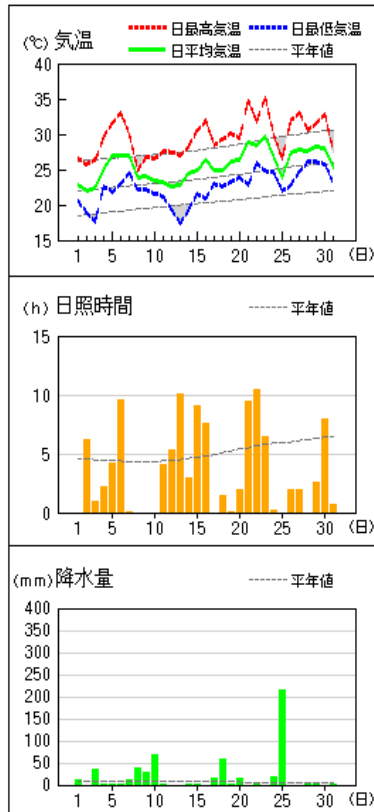
酒田



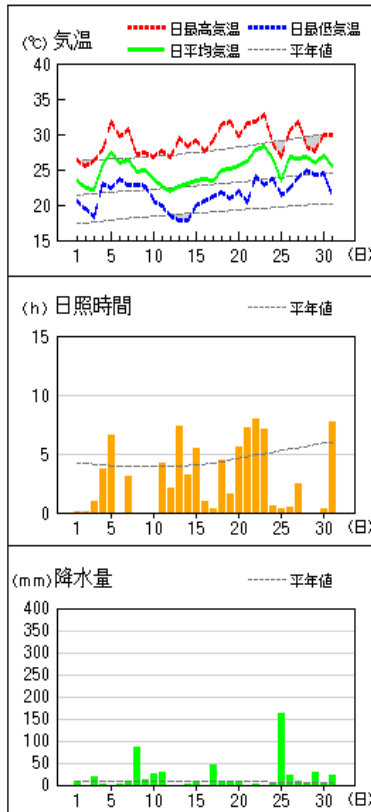
山形



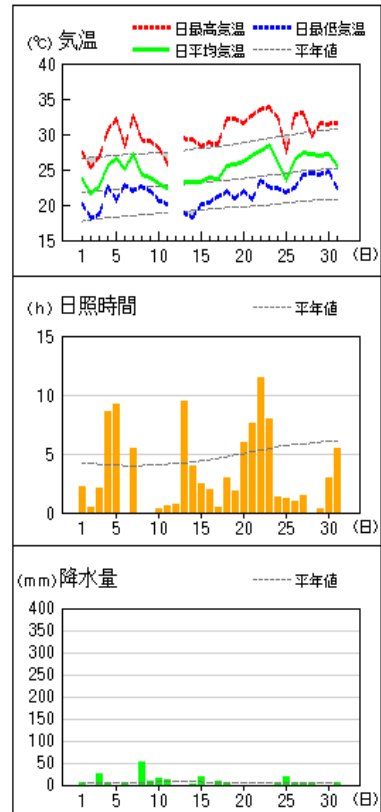
鶴岡



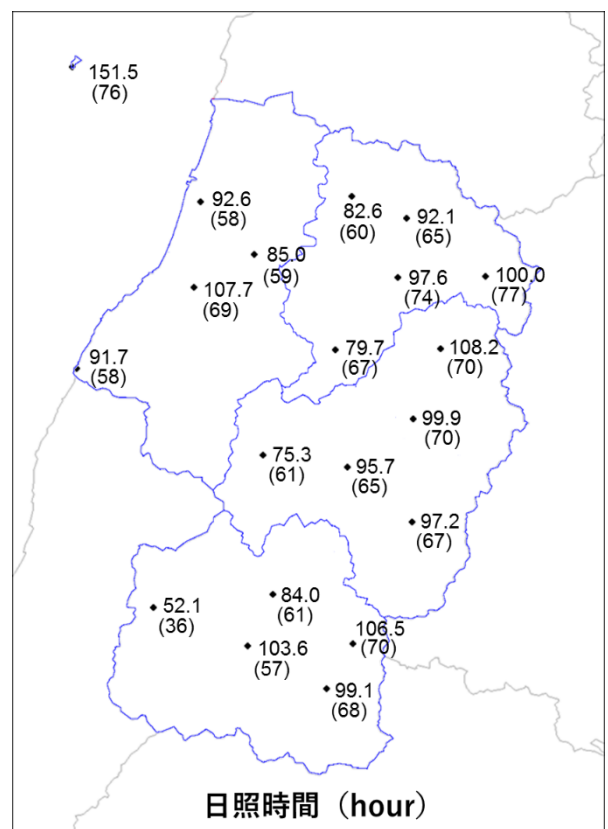
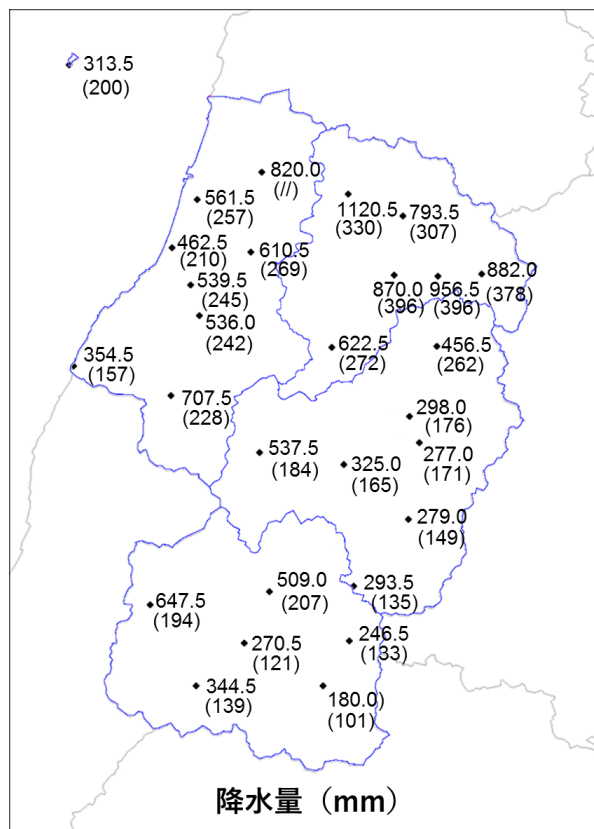
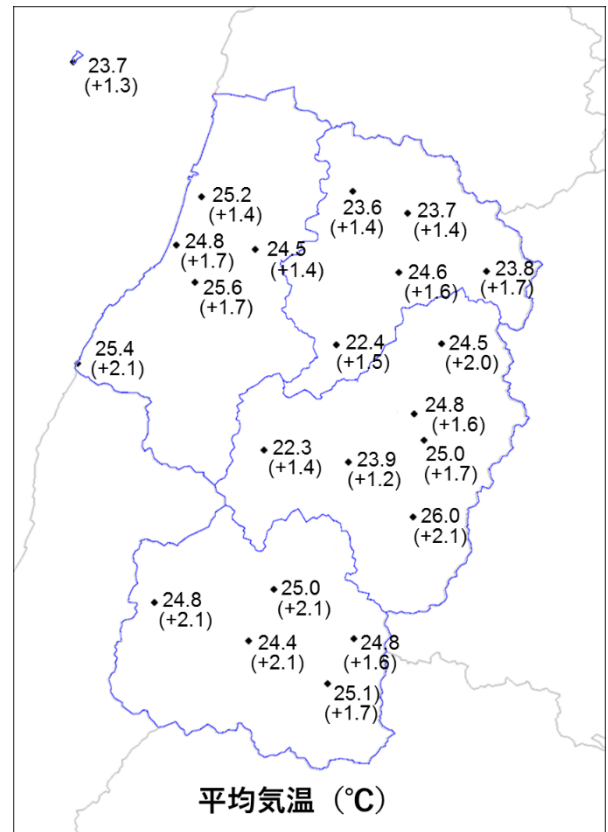
長井



米沢



5 気象分布図（2024年7月）



注】Xは欠測、)は準正常値、]は資料不足値を示す。

平均気温の()内は平年差(°C)、降水量の()内は平年比(%)、日照時間の()内は平年比(%)を示す。

//は平年値なし。平年値は1991～2020年の平均値。

6 極値・順位値更新表 (2024年7月)

気象官署及び特別地域気象観測所(山形・酒田・新庄):7月として1位～3位更新を記載

要素名 (単位)	地点名	観測値	順位	観測日	統計開始
日降水量 (mm)	酒田	288.0 ^{※1}	1	25日	1937年
	新庄	361.0 ^{※1}	1	25日	1958年
日最大1時間降水量 (mm)	山形	49.0	3	25日	1931年
	酒田	86.0 ^{※1}	1	25日	1937年
	新庄	68.0	1	25日	1958年
月最大24時間降水量 (mm)	酒田	289.0 ^{※1}	1	25日	1962年
	新庄	389.0 ^{※1}	1	25日	1958年
月降水量の多い方から (mm)	酒田	561.5	2	—	1937年
	新庄	870.0 ^{※1}	1	—	1958年
日最低気温の高い方から (℃)	山形	25.9	3	24日	1889年
日最大瞬間風速・風向 (m/s・16方位)	酒田	24.5・SW	3	9日	1942年

※同じ値(タイ記録)の場合は起日の新しい方を上位とする

※1:年間を通じて1位を更新

地域気象観測所(山形・新庄・酒田除く):7月として1位更新を記載(統計期間10年以上)

要素名 (単位)	地点名	観測値	順位	観測日	統計開始
日降水量 (mm)	差首鍋	354.0 ^{※1}	1	25日	1977年
	浜中	203.5	1	25日	2003年
	金山	171.5	1	25日	1976年
	鶴岡	214.5 ^{※1}	1	25日	1976年
	狩川	264.5	1	25日	1976年
	瀬見	333.5 ^{※1}	1	25日	1976年
	向町	253.0 ^{※1}	1	25日	1976年
	櫛引	152.0 ^{※1}	1	25日	1977年
	肘折	212.5 ^{※1}	1	25日	1977年
	尾花沢	148.5	1	25日	1976年
日最大1時間降水量 (mm)	差首鍋	61.0	1	25日	1977年
	浜中	55.0	1	25日	2003年
	向町	63.0 ^{※1}	1	25日	1976年
	肘折	48.0	1	25日	1977年
	尾花沢	41.0	1	25日	1976年
月最大24時間降水量 (mm)	差首鍋	384.0 ^{※1}	1	26日	1977年
	浜中	204.0	1	25日	2003年
	金山	221.5	1	26日	1976年
	鶴岡	214.5 ^{※1}	1	26日	1976年
	狩川	265.5	1	26日	1976年
	瀬見	382.0 ^{※1}	1	26日	1976年

	向町	329.0※ ¹	1	26 日	1976 年
	櫛引	152.0	1	26 日	1977 年
	肘折	219.0	1	26 日	1977 年
	尾花沢	163.0	1	26 日	1976 年
月降水量の多い方から (mm)	金山	793.5※ ¹	1	—	1976 年
	瀬見	956.5※ ¹	1	—	1976 年
	向町	882.0※ ¹	1	—	1976 年
	肘折	622.5	1	—	1977 年
日最低気温の高い方から (℃)	差首鍋	23.8	1	28 日	1977 年
	大井沢	22.5	1	29 日	1979 年
	左沢	23.8	1	28 日	1977 年
	小国	25.3	1	29 日	1977 年
	高峰	25.4	1	28 日	1977 年
日最大風速・風向 (m/s・16 方位)	鼠ヶ関	13.5・SW	1	9 日	1977 年
	大井沢	5.7・S	1	9 日	1979 年
	小国	11.2・WSW	1	9 日	1977 年
日最大瞬間風速・風向 (m/s・16 方位)	鶴岡	20.1・SW	1	9 日	2009 年
	肘折	14.9・SW	1	9 日	2010 年
	鼠ヶ関	22.6・WSW	1	9 日	2009 年
	小国	27.3・SW	1	9 日	2009 年

※同じ値（タイ記録）の場合は起日の新しい方を上位とする

※1：年間を通じても 1 位を更新

7 その他

なし

※各種観測値、統計値や平年値及び季節予報は、気象庁ホームページに掲載しています。

【気象資料】 <https://www.data.jma.go.jp/stats/etrn/index.php>

【気象データのダウンロード(CSV)】 <https://www.data.jma.go.jp/gmd/risk/obsdl/index.php>

【季節予報】 https://www.jma.go.jp/bosai/season/#area_type=offices&area_code=060000